

平成28年度行政事業レビューシート(厚生労働省)

事業名	院内感染対策			担当部局庁	医政局		作成責任者				
事業開始年度	平成5年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	地域医療計画課		課長: 迫井 正深				
会計区分	一般会計										
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	院内感染対策事業実施要綱						
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費						
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	近年、多剤耐性菌、インフルエンザウイルス、ノロウイルスをはじめとした各種の病原体に起因する院内感染の発生や、医療技術の高度化による感染症に対する抵抗力が比較的弱い患者の増加などから、医療機関においては、最新の科学的知見に基づいた適切な院内感染対策の実施が求められているため、院内感染にかかる最新の情報提供や、院内感染対策に関する講習会の実施等により、最新の科学的知見に基づいた適切な知識を伝達することで、わが国における院内感染対策をより一層推進することを目的とする。										
事業概要(5行程度以内。別添可)	○院内感染の発生動向の調査及び情報提供の実施 ○以下の講習会の実施にかかる業務委託等を行う。 ・院内感染対策に関して、地域において指導的立場を担うことが期待される病院等の従事者を対象とした院内感染対策に関する講習会の実施 ・上記医療機関と連携し、各医療機関の院内感染対策の推進を図ることを目的とした講習会の実施 ・高度な医療を提供する特定機能病院等の院内感染対策の推進及び近隣医療機関等への指導助言体制の充実を図ることを目的とした講習会の実施										
実施方法	委託・請負										
予算額・執行額(単位:百万円)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求				
	予算の状況	当初予算	69	70	69	118	108				
		補正予算	-	-	-	-	-				
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-				
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-				
		予備費等	-	-	-	-	-				
	計		69	70	69	118	108				
	執行額		61	62	65	-					
執行率(%)		88%	89%	94%	-						
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 -年度	目標最終年度 28年度	
	黄色ブドウ球菌におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の割合を前年度以下とする。		黄色ブドウ球菌におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の割合(27年度については集計中)		成果実績	%	51	49	-	-	-
					目標値	%	53	51	49	-	49
					達成度	%	96	96	-	-	-
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	院内感染対策講習会参加人数		活動実績		人	2,337	2,445	2,427	-		
			当初見込み		人	2,500	2,500	2,500	2,500		
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	院内感染対策サーベイランス事業参加医療機関数		活動実績		施設	1,301	1,671	1,859	-		
			当初見込み		施設	1,087	1,301	1,671	1,859		
単位当たりコスト	算出根拠				単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	院内感染対策講習会執行額/開催会場数		単位当たりコスト		千円	4,095	3,619	3,877	3,877		
			計算式		院内感染対策講習会執行額/開催会場数	28,666/7	25,336/7	27,135/7	27,135/7		
平成28・29年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由							
	諸謝金	0.6	0.6	28年度限りで要求していた事業による減							
	職員旅費	0.4	0.4								
	委員等旅費	0.7	0.7								
	庁費	0.3	0.3								
	医薬品審査等業務庁費	90	80								
	衛生関係指導者養成等委託費	26	26								
	計	118	108								

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	施策大目標3 利用者の視点に立った、効率的で安心かつ質の高い医療サービスの提供を促進すること								
	施策	医療安全確保対策の推進を図ること(施策目標I-3-2)								
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 28 年度	
		黄色ブドウ球菌におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の割合	実績値	%	51	49	-	-	-	
			目標値	%	53	51	49	-	49	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	MRSAは院内感染の起炎菌として頻度も高く、病原性も強い。薬剤耐性菌として最も重要なものの一つである。厚生労働省院内感染対策サーベイランス(JANIS)に参加している医療機関の多くが、この細菌による感染症を経験しており、院内感染対策の成否を図る最善の指標であると考えられているため、この数値を減少させることがわが国における院内感染対策の推進を示すことになる。この数値を下げることで、質が高く安心な医療を提供できることにつながる。と考える。									
	アクション・プログラム	改革項目	分野:	-						
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
目標値			-	-	-	-	-	-		
達成度		%	-	-	-	-	-			
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-		
	目標値	-	-	-	-	-	-			
達成度	%	-	-	-	-	-				
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
-										
事業所管部局による点検・改善										
国費投入の必要性	項目			評価	評価に関する説明					
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	毎年新たな感染症が発生するため、広く国民のニーズがあり、国費を投入しなければ事業目的が達成できない。					
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	毎年新たな感染症が発生するため、広く国民のニーズがあり、民間に委ねることはできない。					
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	院内感染症対策は毎年対策が必要であり、優先度の高い事業である。					
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			△	実施にあたり、募集团体をHPに掲載して広く公募し、評価委員会で実施団体にかかる評価を行い事業者の選定を行っているが、一者応募となったものはない。					
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。			有	実施にあたり、募集团体をHPに掲載して広く公募し、評価委員会で実施団体にかかる評価を行い事業者の選定を行っているが、一者応募となった。今後関係団体を中心に、参加の声かけなどを行う。					
	競争性のない随意契約となったものはないか。			無						
	受益者との負担関係は妥当であるか。			-	-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。			○	毎年削減に努めており、その水準は妥当である。					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-	-					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	各事業に必要なものに限定されている。					
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-	-					
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。			-	-					
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。			○	成果実績は成果目標を達成している。					
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			○	人件費、会場賃借料の節減や講師等への連絡を郵送ではなくメールを使用することにより低コストで実施できた。					
関連事業	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○	講習会参加人数は見込みに見合っている。					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			○	院内感染対策に有効利用されている。					
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			○	本事業は全国的なサーベイランスデータを基に、院内感染に係る最新の情報提供や、院内感染対策に関する講習会を行うものであるのに対し、類似事業は地域の医療機関が院内感染予防及び院内感染発生時の対応等について相談できる体制を整備するものであり、適切な役割分担を行っていると考えられる。					
	所管府省・部局名	事業番号	事業名							
厚生労働省医政局	003-9	院内感染地域支援ネットワーク相談事業								
-	-	-								
点検・改善結果	点検結果	院内感染対策サーベイランス事業については年々参加医療機関数が増加しており、当事業への参加が診療報酬の加算の要件になるなど、今後も増加が見込まれており、より効率的な事業運営が必要となる。この事業は多剤耐性菌のアウトブレイクが問題となった際、国内における多剤耐性菌の分離状況の把握等に有用であるため、サーベイランス事業の精度を向上させるには、参加施設の増加が重要となる。								
	改善の方向性	参加医療機関数の増加は200床未満も対象とすることや、診療報酬の加算の要件とされたことで今後も一定数までの増加は見込まれる。しかしながら、参加医療機関数の増加により、加算目当ての施設もあり、報告されるデータの質も担保する必要があるため、サーベイランスシステムの精度管理を強化しつつ、引き続き適正な執行に努めてまいりたい。								

外部有識者の所見

点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

現状通り

年々参加医療機関数が増加しており、執行率の高いことから、引き続き、必要な予算額を確保し、適正な執行に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り

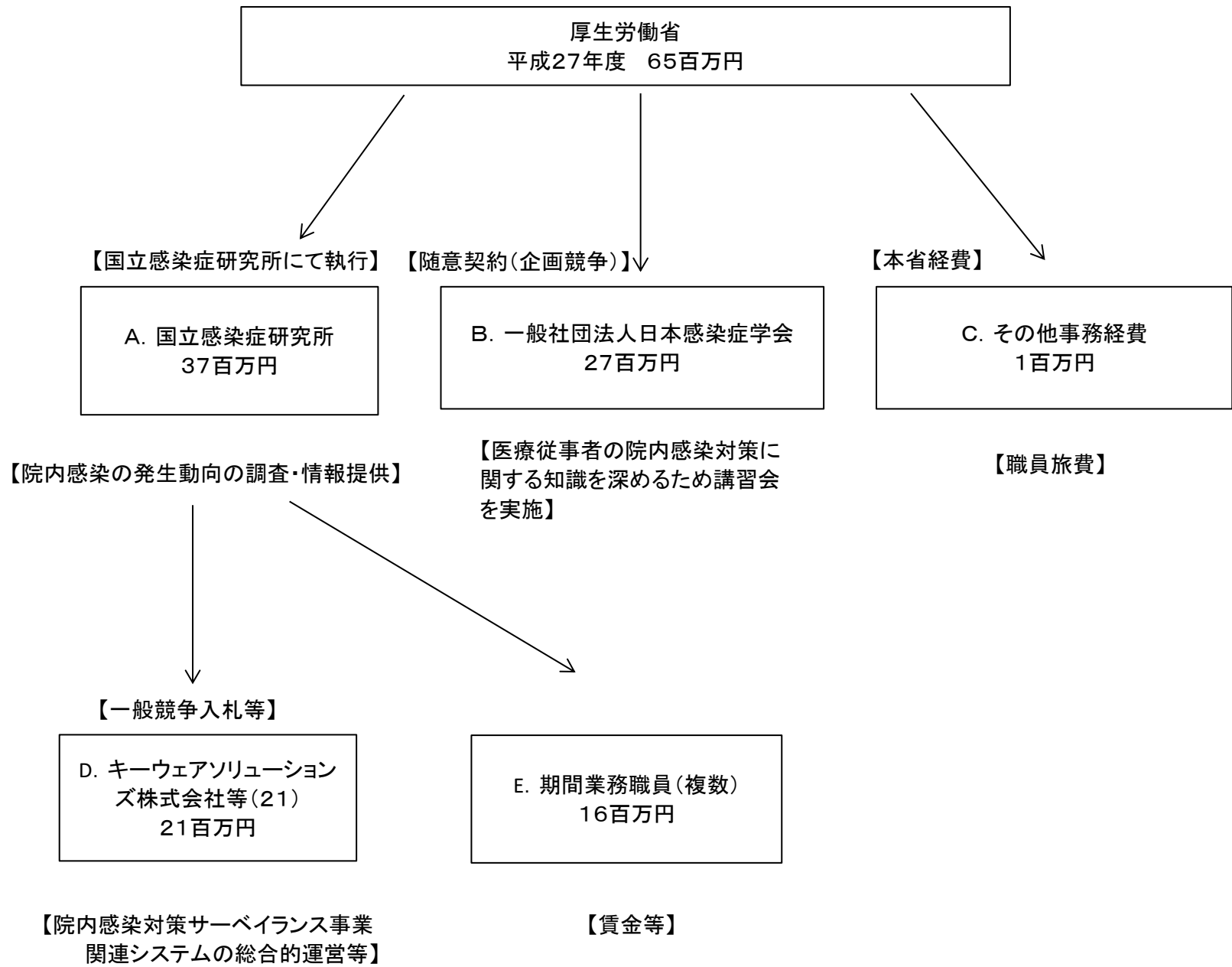
—

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	117	平成23年度	97	平成24年度	74	
平成25年度	72	平成26年度	78	平成27年度	84	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位: 百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」に  
 おいてブロックご  
 とに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。費目と使途  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

A.			B.一般社団法人日本感染症学会		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
			賃借料	会場、器材等	8
			人件費	賃金、謝金等	8
			雑役務費等	印刷製本費、通信運搬費、会議費等	7
			旅費	講師等旅費	2
			消費税	消費税	2
計		0	計		27
C.職員(複数)			D.キーウェアソリューションズ株式会社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
職員旅費	出張にかかる旅費として	1	雑役務費	院内感染対策サーベイランス事業の運営、 集計解析及び情報還元業務	1.5
計		1	計		1.5
E.期間業務職員(複数)			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
賃金等	期間業務職員の賃金等	16			
計		16	計		0

